

# 令和版 近江百人一首

〈読み札〉 第11首～第20首

沖つ波  
かこふ山影  
なみなみと  
満つる汀を  
淡海と言ひけむ

柴田つばさ

写真／辻田新也

奥琵琶の  
桜並木に  
降りたてば  
澄める空気に  
花の精満つ

藤田桂子

写真／辻田新也

お土産に  
食べてみたいと  
君が言い  
木本町で  
サラダパン買ひ

吉田誠

写真／辻田新也

思い出の  
学舎後に  
別れの日  
琵琶湖一周  
夢語る友

酒井夏子

写真／辻田新也

街道を  
見知らぬ人と  
すれ違い  
挨拶かわす  
逢坂の関

中島朋子

写真／(公社)びわこビジターズピューロー

鍛治仕事  
伊吹仰ぎて  
励みしか  
国友鉄砲  
世に知れ渡る

川上幸夫

写真／(公社)びわこビジターズピューロー

風わたる  
琵琶湖みはらす  
長命寺  
八百八の  
石段の上

長公浦宣子

写真／(公社)びわこビジターズピューロー

川端から  
流るる湧水  
澄み渡り  
生水の郷の  
生命守らふ

七

からくりと  
はやしひきつれ  
ねりあるく  
ひきやまのさま  
みごとなけれど

上田準

写真／(公社)びわこビジターズピューロー

唐橋は  
沈む夕日に  
照り映えて  
名残りを惜しむ  
行く夏の刻

文音

写真／(公社)びわこビジターズピューロー

----- で切り取ってご利用ください。